

編集後記

○郷土のキリシタン塔の本格的な研究は、本紙に掲載した藤内喜六理事長の、このレポートから始まったといっても過言ではありません。藤内氏は、ご専門の考古学的手法で塔の形から編年を考えだされ、今もなを研究の途中でありました。キリシタン塔の実測図や部分の実測図は藤内氏によって初めて世に出たものです。

○『立石一件』は、佐藤暁氏が日出町誌編纂の際に発見されたものです。石垣原の合戦についてさまざまな記録がありますが、史料の性格上どの史料よりも情報をより正確に伝えるものといえます。もちろん、『立石一件』は合戦の前後について連綿と綴られています。ここに紹介された部分は、石垣原の合戦に関するもののみで、ほんの一部分にすぎません。

○あの大谷探検隊の大谷光瑞が、晩年に別府と深い関係にあったことは、一般にはあまり知られていません。矢島嗣久氏のご紹介で初めて知った方も多いいと思います。それにつけても、親身になってお世話いただいた、脇鉄一市長をはじめ、高岸、加藤のご努力に感謝申し上げるしだいです。

○富来教授は、昭和四十五年に学生社から出版された『卑弥呼』で発表された学説をますます発展せられて、七号の「トビと太陽とエビス様」はこれまでの論考とともに、郷土が歴史、民族、民俗学とこれほど関わりがあるのか、ということをおあらためて感じさせられます。今後ともよろしく願ひいたします。

○溝部学園理事長相良範子のご紹介になった、天明の飢饉の救荒食のご紹介はじつに興味ぶかいです。東北では米が盗まれほど深刻な不作に見舞われ、貯え、備えることを忘れた今日にたいする警鐘として受けとめましょう。

○李香蘭から電話をいただいて驚かれた、市立図書館長江藤明先生の別府の美術談義次回が楽しみです。今回初めて投稿された長谷部吉貞氏の今後のご研鑽を期待いたします。

編集子